

神社でお参りをする時は、  
「二礼・二拍手・一拝」で。

一回一回の礼と、拍手（かしわで）  
の一瞬に心をこめましょう。神前で  
長居は無用。後に並ぶ人がいる時に  
延々と合掌を続けるのはエゴです。

おさい銭は、放り投げずにそつと  
賽銭箱の上で手を離すように。



## お参りの基本

お願い事も不要です。ただ感謝の  
気持ちを一瞬の拍手に込めます。

全知全能の神さまは貴方のことを  
すでに見抜いておられます。願いの  
想いを持つことは、大切。その上で  
あなたの行動を、神さまは見ておら  
れるのです。

神さまは必要なタイミングで、  
貴方に気づきとご加護を下します。

掛介麻久母畏伎伊邪那岐大神

かけまくもかしこぎ いざなぎのおほかみ

筑紫乃日向乃橘小戸乃阿波岐原爾

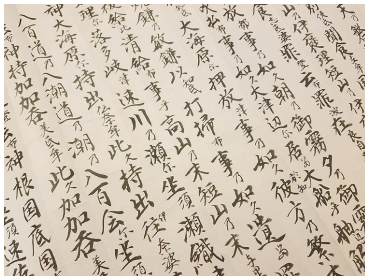
つくしのひむかのたちばなのをどのあはぎはらに

御禊祓閉給比志時爾生里坐世留

みそぎはらへたまひしときになりませる

祓戸乃大神等

はらへどのおほかみたち



## 祓詞～はらえことばを 唱えてみましょう

諸乃禍事罪穢有良牟乎婆

もろもろのまがことつみけがれあらむをば

祓閉給比清米給閉登白須事乎

はらへたまひきよめたまへとまをすことを

聞食世登恐美恐美母白須

きこしめせとかしこみかしこみもまをす

\*

罪と穢れを祓い清める言葉です。

ご参拝にお出かけ下さい。

- ◎月次祭 つきなみさい  
毎月第1・3日曜 午前11時  
※月次祭に続き  
ミニ講話（こうとくにんげん塾）
- ◎歳旦祭 さいたんさい  
元日 午前零時
- ◎式年祭 しきねんさい  
10月1日
- ◎大祓 おおはらえ  
6月30日/12月30日 午前11時



## 神社ごあんない

ホームページにも詳細を掲載しております。



各種御神札・御守袋を  
ご用意しております。

昇殿参拝・各種外祭を  
承ります。ご相談下さい。

お問合せメール  
info@kotoku-jinja.jp



鴻徳神社は昭和五十七年八月、東京深川木場の材木商板東政雄・ふみおご夫妻の篤志により多くの方々の御力添えを得て創建され、五穀大明神（五穀さま）を主祭神として同年十月一日深更に御鎮座されました。御祭神は故田中光雄先生が東京赤羽にて在宅神として奉斎され、鴻徳神社創建に際し御分霊致しました。五穀さま崇敬信徒の会「悟法会」では会員相互に相図り、この尊い神様を世間にお出しし一人でも多くの方に御神徳に浴さしめご利益を頒ち合いたいとの念を抱いて参りました。私共は先人たちの意志を継ぎ、ご霊験あらたかな五穀さまの御座します御社を現実の姿として眼の当たりにした現在、鴻徳神社の存在価値を公的に認められ、宗教体として確固とした礎を築き、初富の岡に後の世まで末永く御鎮座頂くように願っております。

平成三十年 社報  
(第27号)



鴻徳神社

http://www.kotoku-jinja.jp

千葉県鎌ヶ谷市東初富1丁目10番28号  
TEL/FAX 047-444-6750 〒273-0122



こ う と く 塾  
に ん げ ん 塾  
毎月第1・3日曜 午前1時  
月次祭のあとのミニ講

平成二十九年(二〇一七)の記録

◆第二〇一回 「二宮尊徳⑥」

民を守る責任を持つ者、自然の流れに身を置く、他(十二月十七日)

◆第二〇〇回 「二宮尊徳⑤」

あくどい手段で獲得した財産、自分の植えたものを収穫する(十二月三日)

◆第一九九回 「二宮尊徳④」

誠実の人は前もって知る、天に従う、勤勉と誠実、他(十一月十九日)

◆第一九八回 「二宮尊徳③」

精魂込めて取り組む、至誠、動機の誠実、隠れた徳行、他(十一月五日)

◆第一九七回 「二宮尊徳②」

自力で克服する、貧困は道徳の退廃をもたらす、仁術を施す(十月十五日)

◆第一九六回 「二宮尊徳①」

熱心に働くことの価値、真の独立人、自然はその法に従う者に豊かに報いる、他(十月一日)

◆第一九五回 「小學②」

正義か否か、胆は大きく心は細かく、難事の実践を重ねる、他(九月十七日)

◆第一九四回 「小學①」

禽獣の生活、欲望を極めない、君子の九つの念願、他(九月三日)

◆第一九三回 「山上宗二記」

井伊直弼の一期一会、利休の理想とする茶の湯、他(八月二十日)

◆第一九二回 「利休居士伝書」

客の心を読みとって行動に移す気ばたらき、他(八月六日)

◆第一九一回 「楠木正成の生涯②」

領主の恩、正直に人の道を守って無欲な者を賞する、他(七月十六日)

◆第一九〇回 「楠木正成の生涯①」

約束を違えない、我のみが栄えれば乱の端緒となる、他(七月二日)

◆第一八九回 「大祓詞解説」

大祓詞の現代語訳、天つ罪と国つ罪、他(六月十八日)

◆第一八八回 「吉田松陰・講義節記(下)」

君子の交際は水のごとく淡々と、仁でなければ人でない、他(六月四日)

◆第一八七回 「日新公いろは歌④」

必ず天の助けがある、足るを知って楽しむ、他(五月二十一日)

◆第一八六回 「日新公いろは歌③」

敵にも慈悲の心を忘れずに、悟りを開け、心がけ次第、他(五月七日)

◆第一八五回 「日新公いろは歌②」

正道を行え、自分を正しくして己を敬う、恨みには徳をもって対処する、因果応報の教え、他(四月十六日)

◆第一八四回 「日新公いろは歌①」

実践実行が大事、良心をおそれよ、克己心を奮い起こせ、他(四月二日)

◆第一八三回 「西郷どんの逸話③」

太平無事では国人の目が覚めぬ、人は誠実が第一、他(三月十九日)

◆第一八二回 「西郷どんの逸話②」

それ以上は欲、攻勢ありて守勢全し、敬天愛人の思想、他(三月五日)

◆第一八一回 「西郷どんの逸話①」

敵味方供養、質素儉約、何事にも感謝する、恩を忘れない(二月十九日)

◆第一八〇回 「王陽明 伝習録」

対処する事柄に即して自己を磨く、至善が心の本体、他(二月五日)

◆第一七九回 「吉田松陰・講義節記(上)」

禍も福も自分の心掛けが招く、道理に合っているか、至誠(二月十五日)

平成二十八年(二〇一六)の記録

◆第一七八回 「日本人の叡智・山本玄峰」

心眼をひらく、この世できちんと生きる、心を修める、他(十二月十八日)

◆第一七七回 「日本人の叡智・島田叡」

沖繩の島守、偉い人とは(十二月四日)

◆第一七六回 「日本人の叡智・森村市左衛門」

困難にぶつかり鍛えられ名刀に、人生の目的を人格の完成に(十一月二十日)

◆第一七五回 「吉田松陰 留魂録」

人間にも寿命にふさわしい春夏秋冬がある、他(十一月六日)

◆第一七四回 「西郷南州翁遺訓⑨」

君子の心、普段からの準備が大事、他(十月十六日)

◆第一七三回 「西郷南州翁遺訓⑧」

才識と真心が一緒になる、本当のチャンスとは、他(十月二日)

◆第一七二回 「西郷南州翁遺訓⑦」

心構えの出来ている人、常に公平で真心をもって接する、他(九月十八日)

◆第一七一回 「西郷南州翁遺訓⑥」

ただちに一步前進する、国家の大きな仕事を大成する人、他(九月四日)

◆第一七〇回 「西郷南州翁遺訓⑤」

天を敬い人を愛す、人を相手にせず天を相手にせよ、他(八月二十一日)

◆第一六九回 「岸信介の秘密」

ロシア政治経済ジャーナル一四二七より(八月七日)

◆第一六八回 「西郷南州翁遺訓④」

道義を守り恥を知る、正道を踏む、立派な人物になる心掛け(七月十七日)

◆第一六七回 「西郷南州翁遺訓③」

国力を高めるために、収入の範囲内で支出を抑える、他(七月三日)

◆第一六六回 「西郷南州翁遺訓②」

正道を踏み至誠を推す、忠孝仁愛教化の道、他(六月十九日)

◆第一六五回 「西郷南州翁遺訓①」

遺訓について、政治の根本、国民の手本となる、児孫のために美田を買わず、他(六月五日)